

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和2年10月15日

東員町議会 総務建設常任委員会

委員長 伊藤 治雄 様

東員町議会 総務建設常任委員会

副委員長 広田 久男



研 修 報 告 書

研修期間	令和2年10月13日(火) ～ 月 日 () 【1日間】
研修(視察)先	三重県桑名市
目的(テーマ等)	1. 桑名駅周辺整備事業について 2. 公共交通について
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。



様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名：広田 久男 〕

研修概要、内容、所感

研修テーマ1. 桑名駅周辺整備事業～桑名駅自由通路について

●8月30日より併用を開始した桑名駅の西口と東口をつなぐ自由通路を視察した。

JRと近鉄および養老線の切符売り場や改札口はこの自由通路内に設けられており、売店やカフェなども設置されている。

●自由通路(歩行者専用、自転車も手押し可)は延長約180m、幅は6mあり広々している。視察は10時30分頃で通行者はまばらであったが、通勤ラッシュ時でも人の流れはスムーズであろうことは十分に想像がついた。

●飛躍的に改善された利便性と高齢者・障害者への配慮、有事の避難所(緊急待機場所)としての利用のほか、桑名の玄関口として以前の東西改札口で分断されていた旧桑名駅とは比較にならない進化を遂げている。

●整備事業はさらに西口広場、東口広場、駅前ホテル建設などと続いており、桑名市は桑名駅周辺を中心に魅力ある都市に発展する予感を感じた。



自由通路を視察する総務建設常任委員会メンバー

●一方、東員町は東員駅前がとても寂しく感じる。研修後の帰路で北勢線東員駅に下車したとき、開花した秋桜(コスモス)畑をたくさんの人が見に来ていたが、何もない。地域を元気にする1つの活動(事業)として、仮設ショップ(無茶な投資はせずに仮設ハウス程度のもの)を設けて、地域生産者を募り農産物やパン販売などを試してみてもどうかと考える。

研修テーマ2. 公共交通について

2-1. 自動運転バス実証実験

●地方路線バスの課題(赤字、運転手の高齢化)、および外出困難者の増加(高齢化、若者の車離れ)など、桑名市は新たな持続可能な公共交通を構築し、出かけやすい街づくりに向けて群馬大学と共同で自動運転バスの導入実験を行っており、9月26日～28日に2回目の実証実験が大山田団地で行われた。

●同団地内を駐車車両の迂回操作以外はほぼ自動運転で走行し、安全・安心性をPRした。自動運転バスの導入には道路環境整備や自動運転技術、法整備、そして何より住民に認知されるなど、もう少し時間が必要かと思われる。

●近未来には桑名駅まで、或いは名古屋駅まで無人高速バスが走行すると思うと、SFの世界が目前に迫っているような、進化についていけない…、アクセルとハンドルを握り続けたい…、歳は取りたくない…、何とも複雑な心境である。

2-2. デマンド乗合タクシー

●長島地区コミュニティバスは毎日、朝の時間帯は乗客ゼロで走っていた。つまり、地域住民の要望に対し役立っていなかった。そこでH30年7月より毎朝7時30分～8時30分の間は「デマンド乗合タクシー」を試験運行した。1ヵ月に5名～10名の利用がある、とのことであった。

●現在は試験運行でありタクシー会社に頼んで運行している。利用料金は200円/回で、乗車賃との差額を行政が支払っている。事前に予約電話をして～乗車場所は最寄りのコミュニティバス停～下車は公共交通駅まで、としている。

<研修成果>

(東員式) 地域外出支援タクシーの発案

●長島地区の「デマンド乗合タクシー」を聞いて思い付いた。

「(仮) 地域ボランティアタクシー」ができないか? いろいろ課題はありそうだが、外出困難者を助ける「(仮) 地域ボランティアタクシー」を実現できないだろうか?

●地域住民や外出弱者(運転できない人、足腰の弱った高齢者)などが求めている外出支援は、ドアツードアがベストである。しかし現実には実現不可能であり、いかにして理想に近づけた地域交通システムを創るかである。と考える。

●各種研究機関の調査結果から、外出は人を元気にすることが明らかになっている。

例えば東京都健康長寿医療センター研究所では、外出頻度が週1日以下の人は、毎日外出する人に比べて歩行障害の発生リスクは4倍、認知機能の低下リスクは3.5倍などが公表されている。健康寿命を維持するためにも外出支援は重要な取り組み課題である。

●もうひとつ併せて考えなくてはならないのは費用である。

いかに低コストで外出したい人を支援するかは課題解決は、地域住民、取り分け自治会の協力があって実現できるものと考え。

●更に加えて、地域ボランティアなどに参加している人ほど健康寿命が長いと言う研究結果が出ており、また、居住地として人気のある街は自治会活動や地域の助け合い活動が活発に行われている。との調査結果も知られている。

つまり、元気な地域づくりにつながる1つの有効な方法になるとも考える。

●「(仮)地域ボランティアタクシー」の運転員は各地区の賛同を得た協力者で編成したいと思う。運行時間は9時～17時とする。行先は町内施設限定とし、町外への外出要望は最寄り公共交通の駅までとする。

「(仮)地域ボランティアタクシー」の予約は、(仮)役場に担当部署を設けて一括集約する。

●具体的には、自治会単位で各1台の「(仮)地域ボランティアタクシー」を設ける(軽車両でOK)。

例えば、「中上地区ボランティアタクシー」は中上地区を主担当する、空いている時は三和地区を応援する。

例えば、「城山1丁目地区ボランティアタクシー」は城山1丁目を主担当し、空いている時は城山地区を応援する。(この辺の運用ルールは臨機応変に助け合う)～このような外出支援交通システムを描いている。

●全地区一斉でなく、どこかの地区でテスト運行してみるのがよいと考える。

地域の人達と行政が協力して、外出に困っている人を助ける「東員式交通システム創り」を、真剣に検討してみたいと考える。

●【補足】インターネットで調べたら山口県山口市では、すでに「コミュニティタクシー」を実施しているようである。つまり、実現不可能な発想ではない、ということである。

以上